

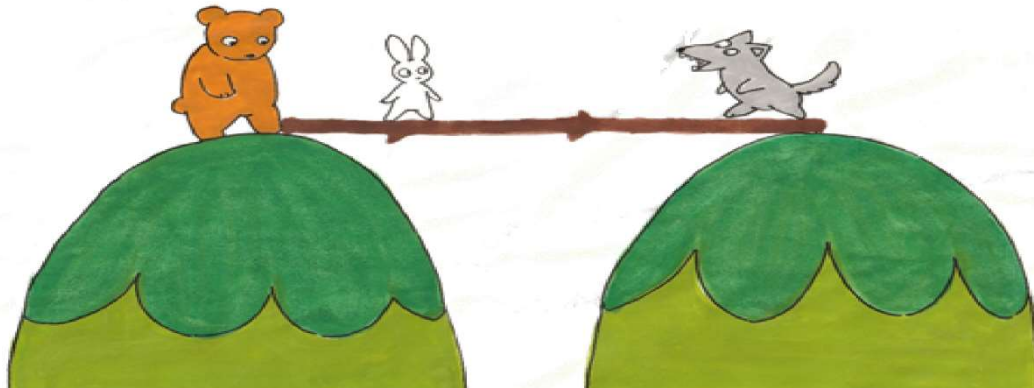
道徳科のお話（第1回）

令和2年度より、従来の道徳の時間が特別な教科 道徳科に変わりました。皆様としては、「道徳科ってなんだ」と疑問が湧くかと思います。道徳科は、「思いやり」などの道徳的価値項目を学級の仲間たちと考える時間になります。一言でいうと議論する道徳に変わりました。

この道徳的価値項目は、子どもたちだけの話ではありません。そこで、このホームページにて、家族でお子様と共に話し合うことを提案させていただきます。。

まず、第1回目のテーマは、「思いやり」です。著作権の問題もありますので、文章ではなく、主に下の絵で物語の説明をします。この話は、道徳界では、有名な話です。この話を最近の社会問題に当てはめると、「あおり運転」に似ています。決して、子どもだけの問題ではありません。

お子様と話するときには、「教える」ではなく、「お父さん、お母さんだったら、こうするよ」と話していただけると有難いです。



これは『はしのうえのおおかみ』という話です。オオカミが森の橋を渡ろうとしています。この橋は、森の木を切っただけのものなので、たいへん狭い橋です。しかも、そんなに丈夫ではありません。橋の向こうからウサギがやってきました。オオカミは、橋を渡りたいので、ウサギに「おい、どげや。」と言います。

まず、この言葉について考えます。「思いやり」があるといえるでしょうか。

次に、「思いやり」がある行動について考えます。そして、オオカミはどのような行動をすれば、よいかを考えます。

子どもと話するときのポイントは、「お父さん、お母さんだったら、こうするよです。」子どもは経験が乏しいですので、周りの人の言動に左右されやすいです。子ども自身が「思いやり」について考え、行動できることを期待します。お互い納得し、みんなが幸せになることを願っています。